



遭難位置

丹後丸：南緯07度41分、東経115度10分バリ島北部シンガラジャ北60Km

隆西丸：南緯07度55分、東経115度15分バリ島北部シンガラジャ北20Km

隆西丸（中村汽船 4,805総トン）・丹後丸（飯野海運 6,200総トン）

昭和19年2月24日1522アンボンに向けスラバヤを出港。

隆西丸には歩兵第三連隊追及の勢部隊、樫通信隊、建築隊、貨物廠1244名、インド兵2865名、現地苦力2559名が乗船

隆西丸の乗船者6668名の内4968名、船員31名戦死

丹後丸には5700名が乗船、5700名、船員34名戦死

生存船員11名。

丹後丸の詳細は不明であり、船体は3分間で沈没するとともに、救助した記録も残っていないため天候などの状況から乗船者全員が戦死したものと推定している。

遭難時は北西の風、風力5（8～10.7m/s）風浪高く小雨模様で視界不良であった。

（戦時輸送船団史）

丹後丸と隆西丸との遭難位置は約14.8マイル(27.5Km)離れている。

護衛：第八号掃海艇 630排水トン 速力20Kt 巡航14Kt 昭和14年2月15日竣工

終戦時スラバヤにて繋留

第十一号掃海艇 630排水トン 速力20Kt 巡航14Kt 昭和14年7月15日竣工

昭和20年3月28日セレベス・マカッサル沖で空爆により沈没

第五拓南丸 343総トン 速力10Kt 昭和15年12月4日徴傭 昭和20年9月2日解傭

佐世保鎮守府所管 特設駆潜艇 第二南遣艦隊配属 海軍兵乗組

丹後丸(6200総トン) Rendsburg (ドイツ) → Toendjoek (オランダ海軍) → 丹後丸 (飯野海運
運行) J B R S

Southeaded at Batavia on March 2, 1942.

Salved by Japanese and renamed TANGO MARU. Sunk in 7 40S., 115 10E.
on February 25, 1944 by submarine

CAPTURED VESSELS MARCH 1942.

10. 5. 40 Seized Batavia by Netherlands;

40 Toendjoek(Ne);

2. 3. 42 Sunk as block ship Tandjung Priok;

8. 12. 42 raised by Japanese;

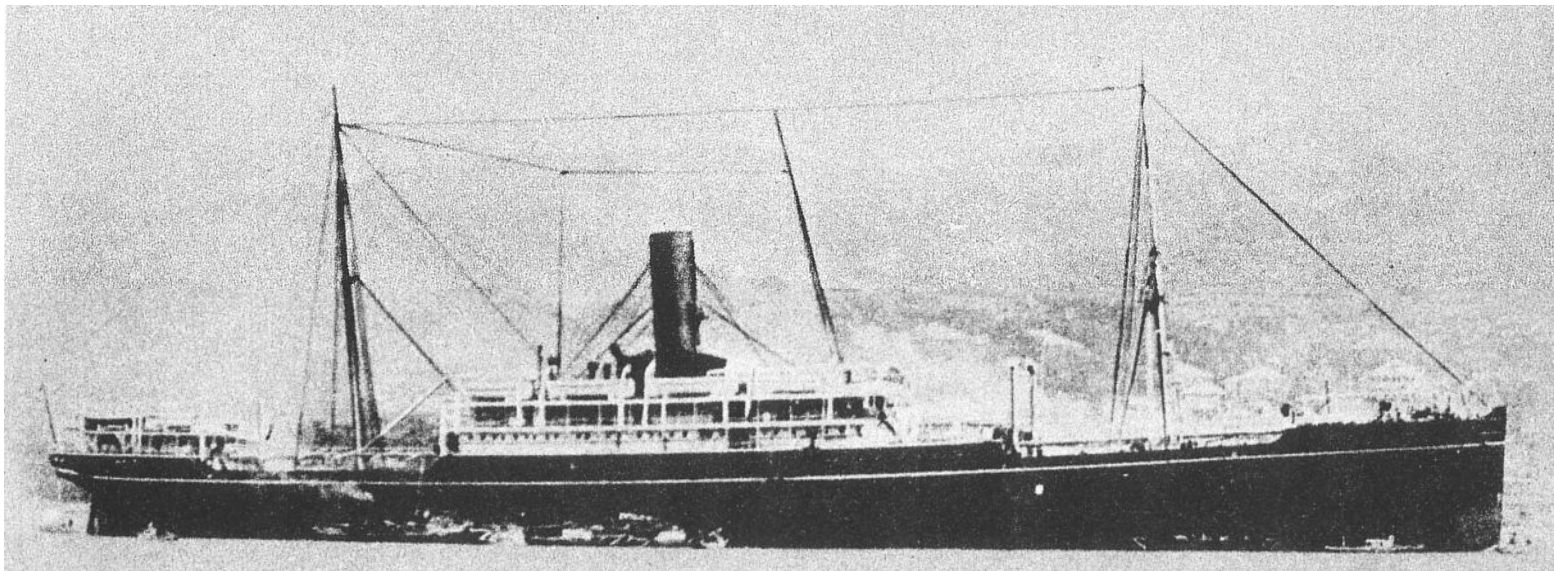
43 Tango Maru(Jpn);

25. 2. 44 2047 torpedoed by Subm USS SS-262 Rasher, sunk, 07-46S 115-09E

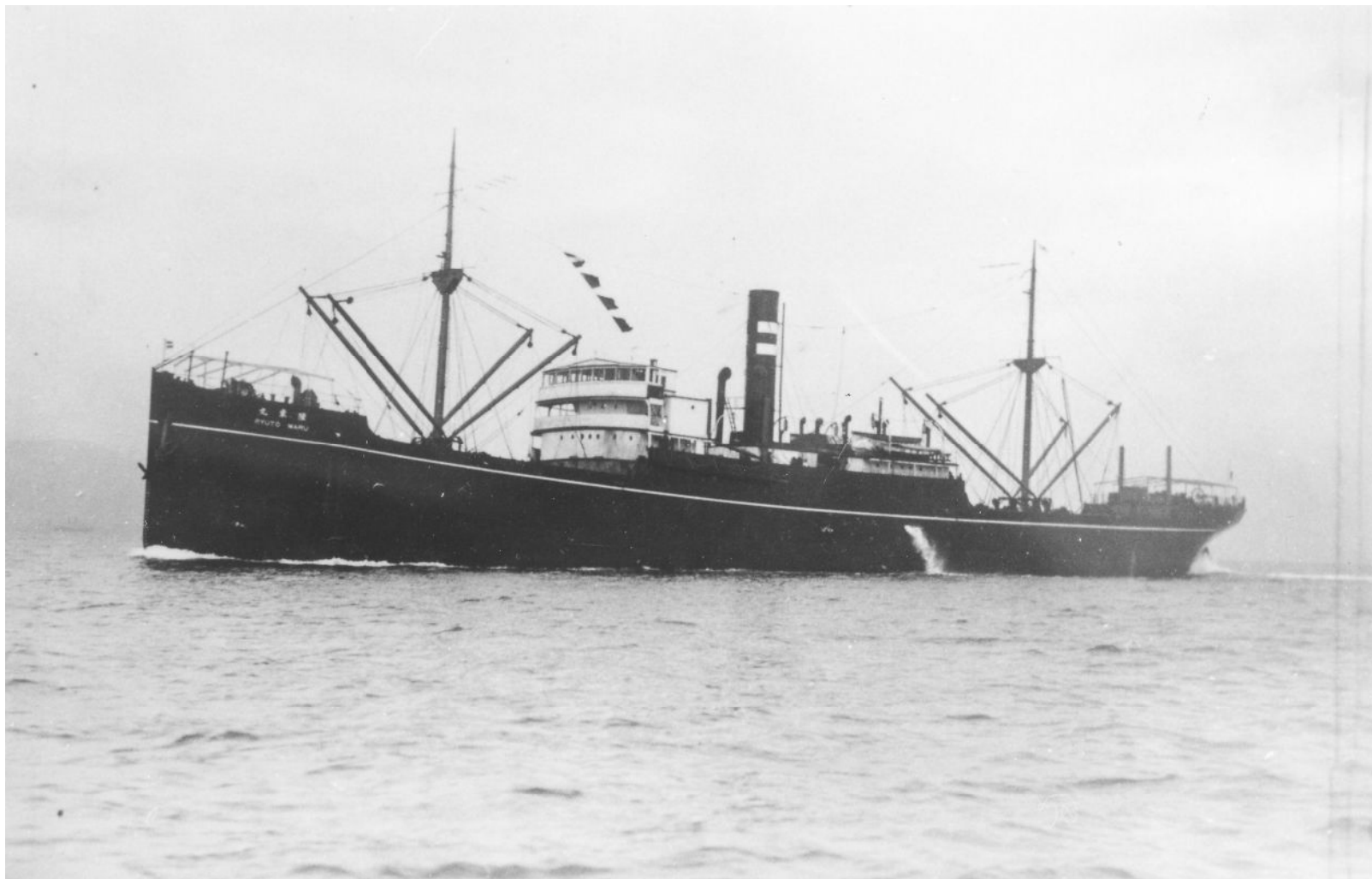
SK 25. 02. 1944

CP 07. 06. 1943

Lpp 450. 3ft:135. 1m W 58. 2ft:15. 1m D 25. 1ft:7. 53m 12Kt



丹後丸 飯野海運 6, 200総トン



隆西丸 4,805総トン Havo → 松本正一 → 中村汽船
長さ 117.35m 幅 15.49m 深さ 9.07m (満載吃水7.472m 空船吃水3.486m)
速力 満船10Kt 空船12.1Kt 信号符字: J XDM
第一、二、四、五船艙: 9.07*5.49m 第三船艙: 5.18*5.49m
25. 2.44 2245 Torpedoed by Subm SS-262 Rasher, Sunk 07-56S, 115-14E
写真は同型船 隆東丸

関連情報

昭和18年6月26日 歩兵第四十二連隊第二大隊 アンボン到着

昭和18年9月20日 船舶司令官を参謀総長直轄

南西に第十一船舶団新設

第一船舶団は船舶司令官直轄として西部ニューギニア（亀：ソロン方面）に移動

船舶司令官 宇品

船舶兵団司令部：セブ

揚陸隊：マノクワリ

補充隊：セブ

第一船舶輸送司令部：宇品

第二船舶輸送司令部：支那

第三船舶輸送司令部：昭南からマニラへ

第一船舶輸送地区隊司令部：アンボン

第四船舶団：豪北

第十一船舶団：南西新設

船舶工兵第四連隊：豪北

船舶工兵第十連隊：南西

第八揚陸隊：豪北

第十一揚陸隊：豪北

海上輸送第一大隊、第二大隊：豪北

海上輸送第三大隊：南西

第四船舶輸送隊：南東

北方船舶隊：北東

直轄部隊 第一船団：東部ニューギニア

昭和18年10月末 アンボン配備部隊 第十九軍司令部、輜重兵第五連隊

第七飛行師団司令部 陸軍航空基地

海軍航空基地

昭和18年11月19日 第百六野戦飛行場設営隊、第十二回台湾特設勤労団、第百九野戦飛行場設営隊、第十三回台湾特設勤労団 アンボン到着。

この設営部隊は内地（門司、宇品、大阪）を9月23日から10月6日にかけて出発し、高雄において台湾特設勤労団を乗船させ、10月23日セブ着、10月下旬セブ発

昭和18年12月24日 第五船舶輸送隊新設編成 マニラ 第一船舶輸送地区隊司令部 アンボン

第四船舶船団司令部 ニューブリテン 第十四連隊 アンボン 海上輸送第一大隊 アンボン

部隊略歴 勢 (いきおい) 部隊

第二軍 セレベス島ピンラン 司令部 勢 1 6 4 0 0
 西部ニューギニア・マノクワリからトビレに転進。12,000名の将兵は1,000人たらずとなる。

17. 11. 03 釜山にて摩耶山丸、にぎつ丸に乗船
 17. 11. 09釜山出港 17. 11. 14高雄着 17. 11. 19高雄発
 17. 11. 23ダバオ寄港、はんぶるぐ丸に移乗 17. 11. 27ダバオ出港
 17. 11. 29ハルマヘラ・カ寄港 豊丸、神日丸に分乗
 17. 12. 04第一梯団マノクワリ上陸 17. 12. 08第二梯団マノクワリ上陸

1 9 年 1 月 ~ 2 月

第二軍野戦兵器廠	勢 1 6 4 0 1
野戦自動車廠	勢 1 6 4 0 2
野戦貨物廠	勢 1 6 4 0 3
第 2 1 防疫給水部	勢 5 1 7 0
第 5 野戦憲兵隊	勢 1 9 2 1
第 8 野戦憲兵隊	勢 7 5 9 2
第 1 0 野戦憲兵隊	勢 2 3 1 0
電信第 2 4 連隊	勢 1 0 3 1 8
電信第 2 6 連隊	勢 1 6 3 1 2
第 2 根拠地隊司令部	勢 9 4 6 6
独立工兵第 3 連隊	勢 5 5 4 3

18. 02. 19スラバヤ発
 桑山丸02. 21カンゲアン北で海没
 国玉丸02. 24アンボン着

第 2 0 野戦高射砲隊 司令部	勢 5 1 5 7
野戦高射砲第 4 4 大隊	勢 3 9 5 9
野戦高射砲第 4 9 大隊	勢 1 2 2 3
野戦高射砲第 5 3 大隊	勢 5 0 6 3
野戦高射砲第 5 4 大隊	勢 5 0 6 5
野戦高射砲第 5 7 大隊	勢 4 3 5 8
野戦高射砲第 7 2 大隊	勢 1 2 6 0 1
野戦高射砲第 7 3 大隊	勢 1 6 3 0 5
野戦機関砲第 4 0 中隊	勢 1 0 5 9 4
野戦機関砲第 4 2 中隊	勢 8 0 5 8
野戦機関砲第 4 5 中隊	勢 1 6 3 0 6
野戦機関砲第 4 7 中隊	勢 1 4 6 9
第十歩兵団 ハルマヘラ 司令部	勢 5 4 4 5
独立守備歩兵第 2 2 大隊	勢 5 0 4 3
第五十五兵站地区	勢 1 0 2 2 5

18. 10. 03敦賀発 18. 10. 04宇品着 富山丸、龍波丸に乗船
 18. 10. 05宇品出港 釜山一六連 (船団編成) 一高雄一マニラーセブ
 ハルマヘラ・カ寄港 18. 11. 15マノクワリ上陸

第四工兵隊司令部 勢 1 2 4 2
 17. 11. 13釜山発 17. 11. 13門司着 17. 11. 13 2400門司出港

独立自動車第 1 2 9 中隊

19. 01. 21宇都宮発 19. 01. 24門司着 19. 01. 24門司発
 19. 01. 30高雄着 19. 02. 02高雄発 19. 02. 05マニラ着 19. 02. 17マニラ発
 19. 02. 27ハルマヘラ発 昭浦丸、昭鳳丸、豊丸、第十八日東丸
 19. 02. 28北緯 0 度 15 分、東経 133 度 02 分において昭浦丸、昭鳳丸沈没
 (昭浦丸：部隊乗船者 7 2 2 名、乗船部隊、船砲隊、船員計 5 6 2 名戦死)
 (昭鳳丸：乗船部隊 5 名、船砲隊 2 名、船員 2 7 名戦死)
 19. 02. 29 1900マノクワリ入港

特設建築勤務第 4 8 中隊 勢 1 0 4 4 6

部隊略歴 勢 (いきおい) 部隊

野戦作井第 5 中隊 (独立工兵第 2 5 連隊) 勢
 18. 11. 13スラバヤ上陸 19. 01. 17スラバヤ出発アンボン・マノクワリ・ビアク上陸

歩兵第 2 1 9 連隊
 19. 03. 27三池丸乗船 青島出港 19. 04. 03横浜寄港 19. 04. 07館山出港
 19. 04. 10父島寄港 19. 04. 18父島出港 19. 04. 24ハラオ入港 19. 05. 19ハラオ出港
 19. 05. 20ソロン入港 (上陸)
 歩兵第 2 2 0 連隊
 19. 04. 16釜山出港 19. 05. 06セイバース海で海没 2 8 0 名行方不明

歩兵第 2 2 1 連隊
 19. 04. 16釜山出港 (陽山丸) 19. 05. 06セイバース海にて亜丁丸沈没 1 6 5 名戦死
 19. 05. 09ソロン上陸 19. 05. 18帆風と陽山丸の 2 隻ソロン出港 19. 05. 21マノクワリ上陸

独立山砲兵第 4 連隊
 19. 05. 06 5 1 名海没

第 3 5 師団通信隊
 19. 05. 06 第二梯団として移動

独立守備歩兵第 2 3 大隊	勢 5 4 4 5
独立守備歩兵第 3 0 大隊	勢 1 4 0 2 2
第一遊撃隊 マノクワリ	勢 2 1 4 1
独立工兵第 1 5 連隊	勢 8 1 2 5
第 1 2 5 兵站病院 マノクワリ	勢 3 8 8 5
特設建築勤務第四十八中隊	勢 1 0 4 4 6
特設建築勤務第五十中隊	勢 1 0 4 4 8
特設陸上勤務第三十六中隊	勢 1 0 4 6 3
特設陸上勤務第三十七中隊	勢 1 0 4 6 4
特設陸上勤務第三十九中隊	勢 1 0 4 6 6

マノクワリ
 ビアク
 アンダイ 勢第一号作戦参加
 マノクワリ勢第一号作戦参加

19. 01. 26スラバヤ出港 02. 25サルバ
 上陸

特設陸上勤務第四十一中隊	勢 1 0 4 6 8
特設陸上勤務第四十三中隊	勢 1 0 4 7 0

ビアク
 19. 01. 26スラバヤ出港 02. 27サルバ
 上陸

特設陸上勤務第四十四中隊 勢 1 0 4 7 1
 19. 01. 22スラバヤ出港 02. 14マノクワ
 リ上陸

部隊略歴

第五十一野戦道路隊	勢	5 5 9 7	サルミ?
第一特設水路輸送隊	勢	1 0 4 3 6	ジャカルタ
19. 03. 23 スラバヤ出港 03. 25マボク海峡にて38名戦死			
第5 5 航空師団 シンガポール	昭		
第4 2 飛行場中隊	勢	1 5 3 6 9	サマテイ
第2 3 飛行場大隊	勢	8 3 2 2	サルミ
第1 0 4 野戦飛行場設定隊	堅	1 5 3 2 9	ワシレ
第1 0 6 野戦飛行場設定隊	堅	1 5 3 3 1	アンボン
第1 0 9 野戦飛行場設定隊	堅	1 5 3 3 4	仏印
野戦機関砲第4 1 中隊	堅	1 0 5 9 5	
第6 飛行師団			
第2 2 飛行場大隊	勢	8 3 2 2	ホーランジア
第5 野戦飛行場設定隊	勢	9 9 5 2	
第1 遊撃隊2 個中隊	勢	2 1 4 1	
第2 8 師団 宮古島 豊 東京			
司令部 豊 5 6 1 1			
歩兵第三連隊	豊	5 6 2 0	東京
派遣軍			
南方軍総司令部 サイゴン	威	1 1 6 0	隸下
南方第七陸軍病院	威	1 0 8 0 3	スラバヤ
南方第十五陸軍病院	威	6 0 8 5	アンボン
独立混成第二十八旅団 スラバヤ 敬			
司令部 敬 1 0 8 2 0			
独立歩兵第1 5 4 大隊	敬	1 0 8 2 1	
独立歩兵第1 5 5 大隊	敬	1 0 8 2 2	
独立歩兵第1 5 6 大隊	敬	1 0 8 2 3	
独立歩兵第1 5 7 大隊	敬	1 0 8 2 4	
旅団砲兵隊	敬	1 0 8 2 5	
旅団通信隊	敬	1 0 8 2 6	
旅団工兵隊	敬	5 2 1 8	